

•Tackle Guide

カサゴ釣りに最もおすすめしたいのが、ライトアジ用ロッド。短く、軽く作られているのでオモリを底スレスレにキープする操作性に優れている。また、6:4調子の軟らかな竿先はカサゴのアタリを弾くことも多い。頻りにタナの取り直しをする釣りなので、リールはサマー式クラッチの両軸リールが使いやすい。



ナギならもっと釣れる

船長は船を風に向けて立てながらカサゴのいるポイントを通す。ポイントを外れるといったん仕掛けを上げて船を回し直す、という繰り返しの釣りがポイントの上で差し加かったときにバタバタとアタリが出ることも多い。根掛かりを避けながらポイントに入るのを待つ、というのがこの日の釣り方だった。

といった感じで明確に竿先に出るが、ここで合わせるとストッポ抜けることが多い。アタリがきたときの竿の位置をキープし、引き込まれた分だけ引つ張り返すようにするとハリ掛かりする。向こう合わせに近い合わせ方だ。竿先が硬いと、あるいは反発力が強いとカサゴは口にしたエサを放してしまうことが多い。根掛かりの多い場所を攻める釣りが、竿先が柔軟な竿を選ぶのがいいだろう。



▲東京湾のカサゴはゴールデンウィークにもおすすめ

カサゴはほぼ周年に渡って狙える、東京湾の代表的な浅場の小物釣りだ。シンプルなお道具立てで釣る手軽さは沖釣り入門にもうってつけであり、海底をいねいにトレースしながらアタリを拾って行く繊細な釣趣はベテラン釣師にも好まれる。

金沢八景は夕照橋に船を構える新修丸は、東京湾カサゴ釣りの老舗である。船上には親子連れのピギナーあり、シニアの釣り師ありと多彩な顔触れがそろい、カサゴ釣りの人気うかがえた。

「あいにくの風が吹きそうです」とカサゴ船の船長。この日は10メートル以上の南西風が吹く予報で、相模湾の船宿は出船中止だった。横浜沖は風裏になるので釣りにならないほどではない。

ただ、根周りを攻めるカサゴ釣りは、ナギの海のほうが釣りやすいと言える。

タナ取りがすべて

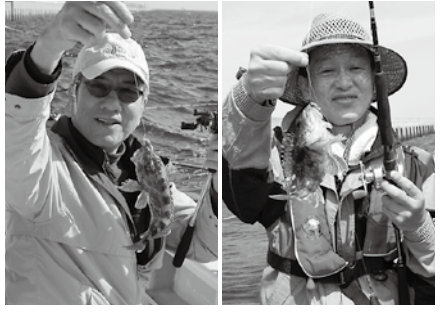
受付脇のアイスボックスから水をクーラーに移し、船で支度をしているとエサのサバの切り身とゴリが配られる。オモリは20号と30号を用意したが、この日は20号を使うようアナウンスがあり、終日20号で通した。

7時半の出船時間となり、船を解いた船は野島の東岸から平潟湾を抜け東京湾に出た。八景近辺のカサゴポイントには、北は横浜沖から南は猿島沖、旧第三海堡周りでまで広範囲に渡る。

この日に船長が選んだのは、航程20分ほどの南本牧沖だった。東京湾の中では比較的新



●中小型主体に釣果は安定。今後も期待は十分だ



私の場合、昔はシロギス竿や横浜竿という先調子で穂先の軟らかい竿を使うことが多かったが、今はもっぱらライトアジの竿を愛用している。これは食い込みをよくするためでもある。

ひととき大きく竿を曲げたのは24センチのカサゴだった。このくらいのサイズになると、ハリ掛かりした後に竿をゴンゴン！とたたき、釣り味も抜群だ。ちびカサゴはていねいにリリースしながら釣っても、バケツはカサゴで埋まっていた。

日が高くなると、南西風が徐々に強まってきた。風裏とはいえ、堤防からの返し波で船はそこそこ揺れる。底スレスレを正確にキープするのが

だんだん難しくなってくる。根掛かりに注意はしているが、波があるとどうしても根掛かりしやすくなり、オモリは2個を失った。慣れない人は5個くらいオモリを用意したほうがいいだろう。

沖揚がりの時間となり、トップは43尾とまずまずの釣果だった。静かな海なら釣果はさらにのびるだろう。翌日はトップ60尾、翌々日はトップ77尾が釣れている。

東京湾のカサゴは安定度でいえばアジやシロギスをも上回るかもしれない。ゴールデンウィークには狙い目で、まめに底を取り直してオモリを底スレスレに保てばアタリは多く、初心者でも楽しめるだろう。

●船宿information

東京湾奥金沢八景

新修丸

☎045-784-2636
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=カサゴ乗合一人 8500円 (エサ、水付き)
▶備考=予約乗合、7時半出船。貸し道具、仕掛販売あり。女性中学生以下割引。駐車場 500円

新明 正義船長

持ち帰ったカサゴは甘辛く煮付けていただいた。煮汁が染みた2日目のカサゴはご飯の友、酒の肴にうってつけだった。

新修丸はカサゴ乗合のほかアカムツ乗合にも出船する。アカムツも比較的手軽なタックルで、静かな湾内を狙うとあってコアなファンは多い。浅場のカサゴ、深場のアカムツ、根魚好きにおすすめしたい船宿だ。



▲底スレスレのタナ取りがアタリを増やすコツ

●東京湾奥金沢八景発！本牧沖

フットミンクライター/伊井泰洋 Yoshitomo Ii

東京湾のカサゴは安定度抜群！

ゴールデンウィークにおすすめ

しいカサゴポイントで、埠頭の縁から15メートルほどの水深になり、コンクリートが点在する海底はカサゴの最適なすみかとなっている。

「根掛かりしやすいので、オモリは底スレスレに浮かせてください」とアナウンスがある。そして「水深が変わりますから、底はまめに取り直してください」と続いた。

カサゴ釣りは、このタナ取りがすべてと言ってよいかもしれない。根掛かりを怖がって仕掛けを浮かせていてはアタリはこないし、かといってオモリが海底を引きずると根掛かりでオモリを取られてしまう。

仕掛けを落とすときも糸フケはなるべく出さず、オモリが着底したらわずかに浮かせる。船の上下動を竿の上下操

作で吸収してオモリの動きを抑え、5秒おきくらいにタナを取り直す。

文書にすると簡単なことだが、慣れない人には、どうしてもオモリが底を引きずっての根掛かりが目立つ。

慣れた人は、一投目からカサゴを抜き上げている。レギ

知得! Tips and Tricks

根掛かりは恐れよう

「カサゴは根を釣れ」、「カサゴは根掛かりを恐れてはいけない」とよく言われる。しかし、筆者はあえて「根掛かりを怖がれ」と言いたい。根を怖がるといっても、単純にタナを上げるのではアタリがこないし釣りにならない。オモリをなくさないよう、臆病なほどに海底との接触に気を配れ、という意味だ。

オモリが根掛かりするとカサゴを食わせるチャンスが失われ、集中力も削られる。根掛かりによるオモリのロストが少ない人は、カサゴの釣果ものびているはずだ。対して、ハリの根掛かりは気にする必要はない。エサが着底を繰り返すくらいでないとカサゴは食わないからだ。

ユラーサイズは18センチ前後、これに23センチオーバーの良型、15センチ前後の小型が交じって釣れ上がる。

▲カサゴ釣りではハリの根掛かりはオモリほどは多くない